

応募要領

2025 年度 SSH 科学人材育成枠「高大接続とつきんとつきんへの道」へ参加するチーム(1チームあたり2～4名)を募集します。各校から何チームでも応募可能です。協同と競争を通じてステージを駆け上がり、海外でも研究成果を発表するプログラムとなります。下記の要領で応募してください。対象は SSH コンソーシアム TOKAI 参画高校の 2025 年度高校1年生となります。多くの参加チームをお待ちしております。

記

別添の「SSH重点枠-2025- 1st stage」に従って応募してください。応募締切は 2025 年4月 25 日です。

1st stage とときへの登竜門

定員)無制限 対象)SSH コンソーシアム TOKAI 参画高校 2025 年度高校1年生

2nd stage 以降に進むための最初のセクション。チームで課題に挑戦し、2nd stage 進出を目指そう！

※ 名古屋の方言で、尖っているものを「ととき」と、最上級を「とつきんととつきん」と表現します。

1st stage 以降の流れ

※研究室とマッチングした場合

2nd stage

定員) 30 チーム予定
日時) 5 月 10・11 日午前午後

専門家による講義や実習(5 回程度)を実施。種々の学問分野からの発想を インターディシプリナリーに議論。レポートや実習内容を基準として 3rd stage 進出者選考。

費用) 会場(名古屋大学 ES 館)までの交通費は自己負担

選考

3rd stage

定員) 10 チーム予定
日時) 8 月1日～5日

宿泊型フィールドワーク(FW)を実施。フィールド調査を通じて課題発見や分析等を。参加者のプレゼンテーションを実施し Adv Stage 進出者選考。

費用) FW 先までの移動費および宿泊費は主催者負担。集合場所(名古屋大学教育学部附属中・高等学校)までの交通費および宿泊中の食費、保険等は自己負担。

選考

Advanced Stage

定員) 5 チーム予定
時期) 高2～3にかけて
10 回程度予定

3rd stage で受入れを表明した名古屋大学、岐阜大学の研究室で研究を実践

費用) 名古屋大学、岐阜大学までの交通費は自己負担。



名古屋大学



岐阜大学

選考

希望者全員 Global stage 1 へ

Power up stage 海外

Global stage 1

世界の大学での講義をオンライン受講

定員) Advanced Stage の 5 チーム予定
3rd stage から選考
日時) 8 月 3 日、9 日、10 日、16 日、24 日(予定)
各回 120 分を予定(時間未定)

選考

Global stage 2

海外での研究成果発表！(アメリカまたはシンガポール)

定員) Global Stage1 から3チーム選抜
日時) 3月を予定
費用) 現地までの航空運賃は主催者負担。海外での宿泊代、食費、航空運賃以外の渡航に関わる費用等は自己負担。

個人が負担する費用は予定ですので、変更になることがあります。
開催日時は予定ですので、変更になることがあります。

SSH コンソーシアム TOKAI

接続大学

名古屋大学 岐阜大学

幹事校

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

参画校

愛知県

県立旭丘高等学校
県立一宮高等学校
県立瑞陵高等学校
県立半田高等学校
県立明和高等学校

名古屋市立向陽高等学校
金城学院高等学校
名城大学附属高等学校

三重県

県立津高等学校
県立四日市高等学校

岐阜県

県立大垣北高等学校
県立加納高等学校
県立岐山高等学校
県立岐阜高等学校
県立岐阜北高等学校
県立長良高等学校

- ♣ 私はこの一年を通して、文系と理系の壁を超えた興味や視点を持てるようになったと思います。SSH 重点枠に応募したはじめの頃は、「理系的な視点」に基づいて与えられる課題にどこまで対応できるか不安でした。しかし、大学教授の講義への参加や、合宿でのフィールドワークを通して、自分の興味を文系/理系で分けていたのは自分自身の考え方だったと気づきました。

特に Global Stage では、経済、環境問題、統計、トレンドといった複合的な視点で問題提起をする教授が多かったように感じます。各分野での知識の深さより、自分たちの知恵や経験をもとにまったく新しいアイデアを考える課題を解いている時が 1 番楽しかったです。また、チームメンバーと考えが違う場面や、逆に、驚くほど共感する瞬間もあり、この経験を通して、普段は話題に上がらないような話し合いができたこともこのプログラムのおかげだと思います。(名大附属高校 I さん)

- ♣ この SSH 重点枠で、私は研究の手法や発表の方法、大学ではどのような研究をしているのかなど様々なことを学びました。特にアメリカ研修ではノースカロライナに行き、現地の高校で研究発表を行い、自分たちの発表方法の改善を行いました。最終的には、現地の大学でポスター発表も行いました。

様々なことを学んでいくうちに特に大切だと思ったことは自分から進んで挑戦していくことです。私は元々自ら発言したり、相手とコミュニケーションをとったり、発表をしたりすることが苦手でしたが、この研修で苦手なことにも挑戦していくうちに、少しずつこれらのことができるようになりました。アメリカ研修では日本の高校生だけでなく、現地の高校生、大学生とも仲良くなれました。また、日本文化とアメリカ文化の違いに触れることが、私にとって新鮮でとても興味深く楽しかったです。高校生の間にこのような経験を出来る機会は少ないと思います。高校 1 年生の皆さん、ぜひこの SSH 重点枠に参加して自ら色々なことに挑戦してってください。(愛知県立半田高校 F さん)

- ♣ 最初は軽い気持ちで始めたこの企画ですが、ステージを重ねていくにつれて、プレゼン力、英語力、思考力など、様々な力が向上していくのを感じました。それぞれのステージが、特定の分野に特化した能力を問うているのではなく、多様な分野を問われるので、各ステージでたくさんの能力を高めていくことができたと思います。特に、最後のアメリカ研修は、英語力だけでなく、様々な日常ではできない経験をすることができ、自分の視野が広がりました。本当に参加して良かったと思っています。みなさんも是非チャレンジしてみてください！

(愛知県立一宮高校 S さん)

